

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』第1回

現役最高幹部、命をかけた内部告発！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月15日発売号>

事件の「本丸」に捜査のメス

JR東日本はこれまでこの問題を、利用客の目から巧妙に隠蔽し続けてきたが、そのJR東日本経営陣を震撼させる事件が起こった。「JR革マル派問題」の“本丸”に、ついに捜査のメスが入ったのだ。警視庁公安部は'05年12月7日、松崎らが組合費を横領し、ハワイの別荘を購入していたとして、業務上横領容疑で、松崎の自宅やJR東労組、JR総連本部事務所など二十数カ所を家宅搜索した。この業務上横領事件並びに松崎の蓄財についてはいずれ稿を改めて詳報するが、家宅搜索はなんと、連続で84時間にも及んだ。「この事件に際して、わが社は、社内外に対して表向き、『コメントする立場にない』とのスタンスを取り、平静を装っていました。しかし実は、家宅搜索が始まった2日後の12月9日、JR東日本本社(東京・渋谷区)の28階会議室に、清野副社長(当時、現社長)、富田哲郎常務、そして浅井克巳人事部長以下、人事部の次長、課長、そしてすべての支社の総務部長が集まって、極秘裏に『緊急総務部長会議』が開かれたのです」(A氏)

会議は、事件に関する対応の意思統一を図るのが目的だったが、この会議中もまだ警視庁の搜索が続いていたことから、出席者の表情には、動揺の色がありありと浮かんでいたという。

「その席で、清野副社長は『今後は(松崎)逮捕ということも腹に置いて考えてほしい』、『大事なことは、現場での動揺を起こさせないことだ』などと訓示し、富田常務も『楽観できない。切迫した状況だ』、『安全をしっかりと守ってほしい』などと発言。浅井人事部長は、JR東労組本部との『拡大経協(経営協議会)』の中止を検討していることを明らかにしました。『拡大経協』とはJR東日本本社サイドとJR東労組本部サイドの忘年会のことなのですが、浅井部長は『こんなことがあって、楽しく忘年会ということにもならないだろう……』と漏らしていたそうです」(A氏)

そして、この「緊急総務部長会議」の最後に、出席者の一人からこんな驚くべき発言が飛び出したという。「“今回のようなことがあった場合は、過去に列車妨害が発生しているケースが多い。くれぐれも注意していただきたい”……」

A氏がさらに続ける。

「この発言こそ、JR東日本の幹部が、革マル派の危険性を十分認識していることを如実に示すものです。しかし、彼らは絶対に、このような発言を公の場ではしない。公共交通機関にとって最も重要な、『安全』に対する懸念を、お客様はもちろんのこと、社員の前でも隠しているのです」